

宇宙線・宇宙物理領域懇談会

日本物理学会2006年春季大会

2006年3月28日

愛媛大学・松山大学

素粒子・原子核・宇宙線分野の領域化

- 2005年3月より領域化
「宇宙線」分科→「宇宙線・宇宙物理」領域
- 宇宙線・宇宙物理領域運営委員会
- 領域代表 杉山 直(国立天文台)
 - － 任期 2005年10月より1年
 - － 領域委員会に委員として参加
 - － 領域委員会は、年次大会・秋季(春季)大会の内容およびこれらの大会に関する諸問題を審議する。」
- 領域副代表 梶田隆章(東大宇宙線研)
 - － 任期 2005年10月より1年
 - － 領域代表委員を補佐、次期領域代表予定者

次期領域副代表

- 社団法人 日本物理学会 領域委員会規定
- (2004年6月12日 第449回理事会承認)
- ...
- (領域副代表)
- 6. 各領域は領域インフォーマルミーティングで選出された領域副代表を置く。領域副代表は、領域委員会、プログラム編成、領域インフォーマルミーティングが円滑に運営されるように領域代表委員を補佐する。

運営委員会による推薦

横山順一氏(東大理ビッグバン宇宙国際研究センター)

[次々期領域代表予定者]

宇宙線・宇宙物理領域運営委員会

- 領域代表と、各研究者団体との間の調整を行い、物理学会年会のシンポジウムや企画講演・招待講演を企画
- 宇宙線研究者会議(CRC)から3名、理論天文懇談会から2名、高エネルギー宇宙物理連絡会から1名の代表と、領域代表
- 次期領域代表・領域副代表の推薦

- CRC 神田展行(大阪市大理)、戎崎俊一(理研)、西嶋恭司(東海大理)
- 理論懇 山田章一(早稲田大, 2006年9月より)(←長澤倫康(神奈川大理))、白水徹也(東工大理)
- 高宇連 國枝秀世(名古屋)(←北本俊二(立教大理))
- 領域代表、オブザーバーとして領域副代表

☆ 任期は各団体に一任 ⇒ 各年次大会で次期委員を承認

次期世話人

- 現世話人

- 白水徹也（東京工業大学理工学研究科）

- 2005年5月～2006年4月

- 田村忠久（神奈川大学工学部）

- 2005年11月～2006年10月

- 次期世話人

- 山田章一（早稲田大学理工学術院）

- 2006年5月～2007年4月（承認済み）

- 吉越貴紀（東京大学宇宙線研究所）

- 2006年11月～2007年10月

日本物理学会若手奨励賞関係

2005年秋の物理学会領域全体懇談会

若手を対象とした物理学会の賞の新設のための議論のお願い

2005年9月6日 日本物理学会会長 佐藤勝彦

1. 賞の種類、例えば論文賞としてか、業績に対しての賞か、学会年次大会、秋季大会発表の賞かなど。
2. 対象とする年齢の上限。
3. 賞を出す年間回数、1回あたりの受賞人数。
4. 選考方法。どのような分野区分をして選考するか、現在の領域でよいか。選考委員の選定など。
5. 表彰状のみか、副賞を考えるか。
6. 他の若手賞との関係など。

→ 意見を集約して理事会に報告

日本物理学会若手奨励賞実施要綱

2006年3月3日 第470回理事会決定

- (0) 目的：将来の物理学をにやう優秀な若手研究者の研究を奨励し、日本物理学会をより活性化するために本賞を設ける。
- (1) 人数：本賞の受賞対象者の上限は、各領域に基本枠1人、さらに、過去3回の年次大会における講演者数（招待講演、シンポジウム、ポスターも含む、ただしパネルなど複数登壇者のあるものは除く、複数領域共催も含む）に比例して定員をわりふる。比例定数は全体として50人以下となるよう調整する（四捨五入による効果は許容する）。具体的には付録1参照。なお、秋季(春季)大会は複数登壇もあることから、各領域の実数を見るには不向きであるので本件データの対象としない。
- (2) 賞の名称：本賞の名称は日本物理学会若手奨励賞とする。

- (3) 対象：受賞の対象は各領域で決定するが、学会講演、学術論文、学位論文など、本賞の趣旨に合致するものであること。若手の定義も領域の判断によるが、受賞者は物理学会会員にかぎる。各領域の判断により、賞を領域内の各グループで分割し、それぞれが別の基準を設けても良い。授賞者は学会長とし、会長名で賞状を授与する。
- (4) 義務：受賞者は受賞後最初の年次大会で招待講演を行うこと（この登壇は一般の講演とは別枠で、領域の講演数にはカウントしない）。受賞者は、この招待講演の時にかぎり大会参加費を免除する。
- (5) 開始：合意のできた領域ごとに授賞を始める。全領域で準備ができていなくても良い。
- (6) プロセス：領域代表は、領域の合意により、募集要項（2年次以降は変更のあった場合のみ）、審査員名簿、必要なら別添資料を学会に提出し、理事会での了承を受けて、授賞候補者の選考を行う。領域は招待講演を行う大会のプログラム編成委員会開催までに候補者を選出し、審査の経緯と結論を理事会に文書で報告しなければならない。理事会では選出された候補者を審議し、受賞者を確定する。

2007年5月頃

(7) 時期：2007年の年次大会に授賞を始める。 領域ごとの人数は3年後にみなおす（2010年の年次大会の授賞から）。年次大会が秋にある場合もあるので、2010年の年次大会の授賞者の数は2006年（61回）、2007年（62回）、2008年（63回）の3回のデータを用いて、2009年度に審査して2010年の年次大会で授与する奨励賞の数を再決定する。以下、3年ごとに同じサイクルを繰り返す。

2007年9月

(8) 取り消し：受賞者が本会の名誉を傷つける行為を行った場合、理事会は賞を取り消すことができる。

(9) 例外事項：すでに同趣旨の賞を実施している分野では、この規定に関わらず、領域特有の事情で個別の措置が必要なら、理事会での承認を持って適応することができる。ただし、受賞者の上限はこの限りではない。

付録1 2003、2004、2005年の年次大会のデータからの受賞者決定方式

ここでAは各領域における受賞者の上限で

$A = 3 \text{年間の平均占有率}(\%) * 0.31 + 1$ 、を四者五入、

である。ここで、19の領域があり、残り31人を占有率で比例配分した。

	2003(58)	2004(59)	2005(60)	A
素粒子論領域	4.91	4.17	4.41	2
素粒子実験領域	3.71	3.82	3.55	2
理論核物理領域	4.11	3.95	5.45	2
実験核物理領域	4.8	5.02	4.5	2
<u>宇宙線・宇宙物理領域</u>	5.81	5.49	5.2	<u>3</u>
ビーム物理領域	2.21	2.43	2.01	2
領域1	6.12	5.51	5.07	3
領域2	4.97	4.98	6.70	3

御議論していただきたいこと

- 宇宙線・宇宙物理領域で3名(上限)の受賞者枠。これを理論系1、実験系2推薦でよいでしょうか？
- 候補の選考は各領域に任されています。具体的な候補者選考をCRC、高宇連、理論懇の組織をベースにおこなう必要があるので、この実施方法を議論、決定する必要があります。(最初の領域としての受賞者候補を2007年5月までに選ぶ。次の候補は2007年11月までと変則的。)
- 現在ある賞はどうするか？(基本的に物理学会賞に移行と仮定されているようですが、それでよいでしょうか？)(CRC賞は副賞(賞金)として存続したいとの意見がでています。)
- 物理学会若手賞は、領域ごとでの運営となっているので、最終的に細かい運営については領域運営委員会にまかせていただけませんか？

メモ

議論となった点

- CRCと高宇連の選考委員会と賞金の関係
- 同じことを理論懇とのかねあい
- 新領域委員の任期はいつから？(山田さん; 2006年10月で正しい?) 國枝さんは？

予備

参考：宇宙線分科世話人リスト

- 2005.5-2006.4 白水徹也(東工大理)
- 2004.11-2005.10 埜(さこ)隆志(名大STE研)
- 2004.5-2005.3 長澤倫康(神奈川大理)
- 2003.11-2004.10 河内明子(東大宇宙線研)
- 2003.5-2004.4 樽家 篤史(東大理ビッグバン)
- 2002.11-2003.10 吉田 滋(千葉大理)
- 2002.5-2003.4 北山 哲(東邦大理)
- 2001.11-2002.10 荻尾彰一(東工大理)
- 2001.5-2002.4 杉山 直(国立天文台)
- 2000.11-2001.10 中畑雅行(東大宇宙線研)
- 2000.5-2001.4 椎野 克(東工大理工)
- 1999.11-2000.10 西嶋恭司(東海大理)
- 1999.5-2000.4 大原謙一(新潟大理)
- 1998.11-1999.10 梶田隆章(東大宇宙線研)
- 1998.5-1999.4 石原秀樹(東工大理)
- 1997.11-1998.10 森 正樹(東大宇宙線研)
- 1997.5-1998.4 横山順一(京大基研)
- 1996.11-1997.10 梶野文義(甲南大理)
- 1996.5-1997.4 田原 譲(名大理)
- 1995.11-1996.10 堀田直巳(宇都宮大教育)
- 1995.5-1996.4 杉之原立史(東大理)
- 1994.11-1995.10 村木綏(名大STE研)
- 1994.5-1998.5 川崎雅裕(東大宇宙線研)
- 1993.11-1994.10 川上三郎(大阪市大理)
- 1993.5-1994.4 岡田 淳(東大宇宙線研)
- 1992.11-1993.10 水本好彦(神戸大理)
- 1992.5-1993.4 手嶋政広(東大宇宙線研)
- 1991.11-1992.10 宗像義教(中部大工)
- 1991.5-1992.4 松原 豊(東工大理)
- 1990.11-1991.10 宗像一起(信州大理)
- 1990.5-1991.4 吉井 尚(愛媛大教養)
- 1989.11-1990.10 柳町朋樹(立教大理)
- 1989.5-1990.4 垣本史雄(東工大理)
- 1988.11-1989.10 長谷部信行(愛媛大教養)
- 1988.5-1989.4 鳥居祥二(神奈川大工)
- 1987.11-1988.10 野上謙一(独協医大)